



# 僧帽弁閉鎖不全症



僧帽弁閉鎖不全症とは、左心房と左心室の間に位置する僧帽弁が変形して生じる弁膜疾患です。

全ての犬種にみられますが、とくにマルチーズ、シー・ズー、ポメラニアン、プードル、キャバリアなどの小型犬に多い病気です。加齢とともにその発生が増加します。

**僧帽弁って？** 僧帽弁は、心臓の左心房と左心室の間に位置する2枚の薄い弁で、心臓が収縮した際に心房と心室を閉鎖し、左心房への血液の逆流を防ぐ働きをしています。

僧帽弁の閉まりが悪くなると、心臓が収縮する際に全身に拍出されるべき血液の一部が弁の隙間から左心房内に逆流します。

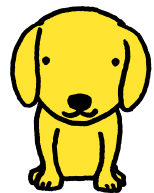
この状態を僧帽弁閉鎖不全症といいます。

**症状は？** 発生当初は、症状がなく、心内雑音（心臓の収縮時に血液が逆流する音）が聴取されるのみですが、だんだんと症状が悪化すると、心臓が大きくなり、気管支が圧迫され、肺の機能が低下します。また、運動をしたがらなくなったり、咳をしたり、呼吸が荒くなったり、倒れたり、と目に見えて分かる症状が現れた時には、すでに病気が進行し、心臓や肺の状態、僧帽弁の状態がかなり悪くなっています。

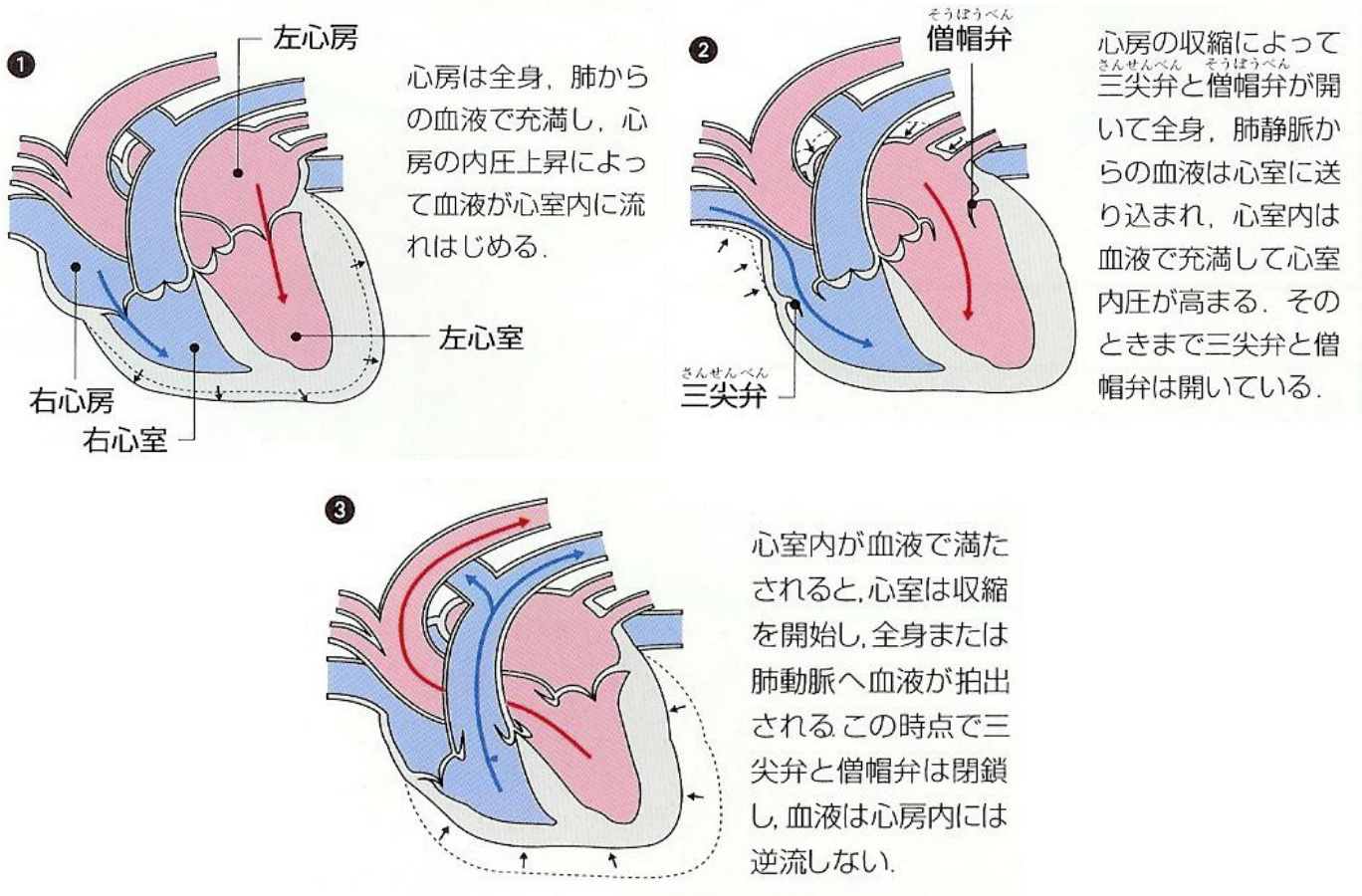
**治療法…**

- ☆ 運動制限 → 激しい運動は控えましょう。
- ☆ 食餌管理 → 塩分の多い食品を与えないようにして下さい。
- ☆ 薬 → 血圧を下げるための血管拡張剤、強心剤、利尿剤などのお薬を投与して、病気の進行を抑える治療を行います。

病気の進行を抑えるための薬物投与と生活の改善の両方が求められます。  
ご家族の協力こそが病気の進行を遅らせる鍵となるのです。



## 正常の血液の流れ方



## 僧帽弁閉鎖不全症の血液の流れ方

